



東京医科歯科大学医学部附属病院の理念と基本方針

- 理念：安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院
- 目標：1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 国民のニーズに応える開かれた病院

医療連携支援センター TEL:03-5803-4655
(地域連携室) FAX:03-5803-0119



財団法人日本医療評価機構 認定病院

医療連携だより



新病院長よりご挨拶

2014年4月より新医学部附属病院長に就任致しました木原和徳です。泌尿器系の癌を専門として、30年以上本院に勤務し、手術室で長い時間を過ごしてきました。田中雄二郎前病院長のご尽力で、当院でも少しずつ「顔の見える連携」が実現されつつあります。「国立」という名称だけで患者さんに来ていただける時代ではない厳しい現状を乗り越えるためには、医療連携を強化することは最も重要な課題のひとつと考えております。そして小さな改善を積み重ねていくことが病院のサバイバルには必要と思っております。

医療情報の共有や、迅速な連携対応など、患者さん中心の医療連携を実現するために最優先に取り組んでまいります。引き続き、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

医学部附属病院長 木原和徳



TOPICS

- 新旧病院長対談
- 不整脈センターのご紹介／平尾見三センター長
- 形成・美容外科のご紹介／岡崎睦教授
- 看護部新部長のご紹介／川崎つま子部長
- 泉山肇・新センター長よりご挨拶
- 新メンバーのご紹介
- 医療機関からの予約について
- メールマガジンにご登録ください



医療連携支援センターの役割

- 紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- 難病治療部の初診予約受付
- 一般診療の初診予約受付
- 入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- その他の医療・福祉相談

医療連携支援・新センター長よりご挨拶



メルマガを
ぜひご登録ください

医療連携支援センター
泉山 肇 センター長
いずみやま はじめ

本年4月より医療連携支援センター長に就任いたしました。
医療機関の機能分化が推進されるなか、地域医療機関の皆様とより親密な医療連携が構築できるようセンター職員が一丸となって努力して参ります。ご意見・ご要望がございましたら何なりとお申し付けください。また、昨年度より当院に関する理解を深めていただくことを目的にメルマガジンの発行を開始いたしました。ご登録は当院ホームページから医療連携支援センターホームページにアクセスいただき「メルマガ申込」（オレンジ色）に記載いただければ定期的に発信させていただきます。是非ご活用ください。

医療連携支援センター新メンバーのご紹介



4月より8人の新メンバーを迎えました。

前列右より

趙 玉梅（ちょう ぎょくばい）・医療福祉支援室

ひとこと 中国語と韓国語での対応もできますのでお声掛け下さい。

長尾 和彦（ながお かずひこ）・医療福祉支援室

ひとこと 病院勤務は初めてですが、皆様の知恵を借りながら頑張ります。

佐川 小百合（さかわ さゆり）・看護部（医療福祉支援室）

ひとこと 看護師として笑顔で丁寧な対応を心掛けて精一杯頑張ります。

寺田 実央（てらだ みお）・医療福祉支援室

ひとこと 医療ソーシャルワーカーとして、患者さんが安心して療養生活を送れるよう、精一杯努力してまいります。

後列右より

宇野澤 彩音（うのざわ あやね）・医療福祉支援室

ひとこと 社会人一年生ですが、早く業務に慣れ、適切な対応ができるよう頑張ります。

芝田 八千代（しばた やちよ）・看護部（医療福祉支援室）

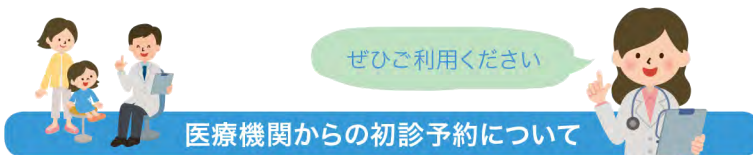
ひとこと チームワークを大切に充実したサービス、サポートの提供に努力してまいります。

長岡 由希子（ながおか ゆきこ）・看護部（医療福祉支援室）

ひとこと 病棟から異動となり、新たな気持ちで、患者さんやご家族が安心して療養できるようお手伝いします。

重吉 睦子（しげよし むつこ）・看護部（医療福祉支援室）

ひとこと 他職種の方々と連携をとりながら看護師としての役割を發揮していきます。



医療機関からの初診予約について

FAX 予約
の場合

FAX : 03-5803-0119

（受付時間 8 : 30 ~ 16 : 00）



に、紹介状・申込書を送信してください。

速やかに当院より確認のお電話をかけ、FAXで「外来診療予約票」を返信します。

電話予約
の場合

TEL : 03-5803-4655

（受付時間 8 : 30 ~ 16 : 00）



に、電話をおかけください。

その際に患者さんの氏名・生年月日・希望診療科名・予約希望日をお知らせください。

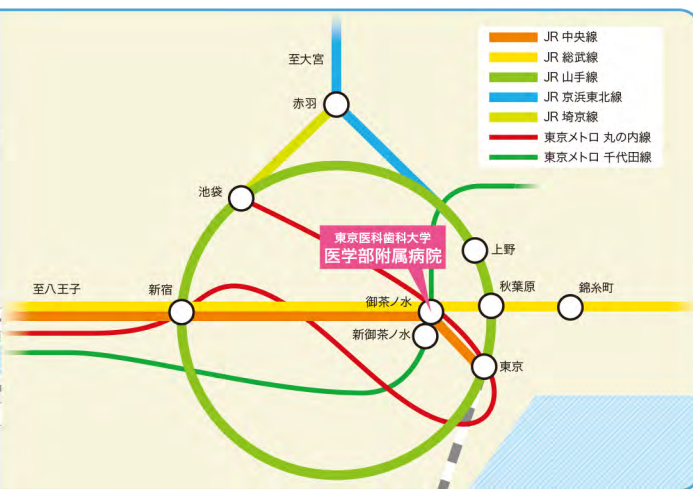
*土日祝祭日・年末年始（12月29日～1月3日）、および受診日当日の予約は受け付けておりません。時間外・休日などのお申し込み分は翌診療日にご連絡させていただきます。

お問い合わせ先 03-5803-4655（地域連携室）



メルマガジンに
ご登録ください！

医療連携支援センターでは、メルマガジンを発行しております。当院ホームページより医療連携支援センターにアクセスし、オレンジ色の「メルマガ申込」からご登録ください。



JR東日本：中央線・総武線（各駅停車） 御茶ノ水駅下車 御茶ノ水橋口（徒歩5分）

東京メトロ（地下鉄）：丸ノ内線 御茶ノ水駅下車東京医科歯科大学方面出口（徒歩1分）/千代田線 新御茶ノ水駅下車B1出口（徒歩7分）

東京医科歯科大学医学部附属病院 医療連携だより 7号

発行 〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 東京医科歯科大学医学部附属病院医療連携支援センター TEL:03-5803-4655 FAX:03-5803-0119
<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/renkei/>

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。



医療連携はやっとスタートを切ったところですが(田中)
顔の見える地域連携を大切に育んで行きます(木原)



田中雄二郎 前病院長

(たなか ゆうじろう/医療・国際協力担当理事・副学長)



木原和徳 新病院長

(きはら かずのり/泌尿器科教授)

平成26年4月より泌尿器科の木原和徳教授が、当院の病院長に就任しました。田中雄二郎前病院長は医療・国際協力担当理事・副学長として当院を支えます。

木原 今年2月に「第1回地域医療懇談会」が開催され、連携病院の医療スタッフの皆さんと、意見を交わすことができたのは、大きな飛躍になりました。

田中 私が病院長の間の実現できたことが本当にうれしかったです。130名もの方にご参加いただき、face to faceで患者さん第一の医療連携について話し合えたことも財産になりました。積み残した課題は、これから木原病院長と一緒に解決して参ります。

電子カルテの共有で紹介患者さんの治療状況がわかるように(田中)
将来的には診療や手術のようすもオンタイムで共有したい(木原)

田中 今秋からスタート予定の「紹介患者さんの電子カルテ共有システム」により、当院での治療状況が、オンタイムでわかるようになり、医療連携がさらにスムーズになります。これは患者さんにとって、大きなメリットですね。

木原 電子カルテの共有に留まらず、診療や手術の様子なども、ご紹介いただいた医療機関と共有できることも目標のひとつにしようと考えています。これが実現すれば、世界初の地域医療連携システムと言えるかもしれません。

Talk
Talk



医療系、事務系、スタッフが丸となって取り組みます(田中) 小さな心配りを積み重ね「良かった」と言われる病院をめざします(木原)

田中 病院の壁に傷がついているのを見ただけで、自分の体に痛みを感じてしまうほど、病院長のときは病院と一心同体でした。「患者さんに喜ばれる病院とは?」「スタッフが働きやすい病院とは?」と常に思案し続けていましたので、木原病院長のご苦勞がよくわかります。

木原 患者さん中心の病院、患者さんに寄り添う病院…それをひとつ、ふたつと具体的な形にするために、小さな心配りを積み重ねて行こうと思います。

田中 地域の医療機関の皆さんからも「安心して患者さんを紹介できる」と思っていたできるように、医療系、事務系に関係なく、スタッフが丸となって取り組んで行きましょう。

木原 はい。「紹介して良かった」「この病院で治療をしてよかった」と、実感していただけるように、小さなことから少しずつですが、行動していきたいと思っています。



Topics

不整脈センターのご紹介



カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)は年間約277件
全国有数の実績と経験

不整脈センター
平尾見三 センター長
ひらお けんぞう

脳卒中の最大の原因と言われる心房細動の患者数は国内に100万人以上。「心拍の乱れによって、心臓内の血流が悪くなり、血の塊が発生し、それが血管内を流れて、脳の細い血管を詰まらせ、脳卒中や脳梗塞を起こしてしまうのです」と説明する平尾見三・不整脈センター長(特別診療教授)。これを予防するためにも、脈が速く、動悸・息切れ・めまいなどを感じたら、早めに病院で診てもらうこと。初期であれば、抗不整脈薬で治療が可能で、頻脈が7日以内で治まる初期の発作性心房細動ならば、1回のカテーテルアブレーションで約8割の患者さんが根治します。カテーテルアブレーションは、太ももの静脈からカテーテルを差し入れて、心臓の左心房へ到達させ、心臓の壁を内側から細かく焼くことで、心房細動が起こらないようにします。「当院の不整脈センターは全国でも有数の実績と経験がありますし、循環器専門医が5名、不整脈専門医が5名所属していますので、ぜひ安心して患者さんをご紹介ください。」(平尾先生)。

形成・美容外科のご紹介



顔面神経麻痺の治療で患者さんの
笑顔を取り戻します

形成・美容外科
岡崎 睦 診療科長(教授)
おかざき むつみ

今年2月の日本形成外科手術手技学会で最も優れた演題として表彰されたのが、診療科長の岡崎睦先生(教授)が中心となって開発した顔面神経麻痺の治療技術です。「広背筋という背中の筋肉の一部を、顔面神経麻痺を起こしている部分に移植して、細かい神経や血管を縫合し、より自然な表情ができるようにする手術です。従来手術では、移植する筋肉は1つでしたが、一度に2つ、3つと移植することにより、より確実に複数の機能を再建することに成功しました」と説明する岡崎先生。顔面神経麻痺の患者さんは、「自分の顔のゆがみは治らない」とあきらめてしまう人が多いそうです。原因は外傷、ウイルス感染、脳卒中、腫瘍などさまざまで、脳腫瘍などの手術後に現れることもあります。「顔にけがをしたり、顔、首、脳の腫瘍摘出後、ウイルス感染後の後遺症で、顔の一部が思うように動かないと訴える患者さんがいたら、ぜひ早めにご紹介ください。」(岡崎先生)。

岡崎先生が開発した顔面神経麻痺の治療法に対する表彰状



看護部長のご紹介



連携施設の看護師さんや介護士さんとの交流を大切にします

看護部
川崎つま子 部長
かわさき つまこ

4月から当院で約750人の看護師を統括する川崎つま子看護部長。前職の足利赤十字病院での経験を生かし、「患者さんが一日も早く回復するために看護師ができることを粛々と続けると共に、高度な医療を求めている患者さんや医療機関の皆さんの要望にしっかりと応えられるよう、知識を蓄えて参ります。連携施設の看護師さんや介護士さんとの交流も大切にしたいと考えております」と笑顔で抱負を語りました。